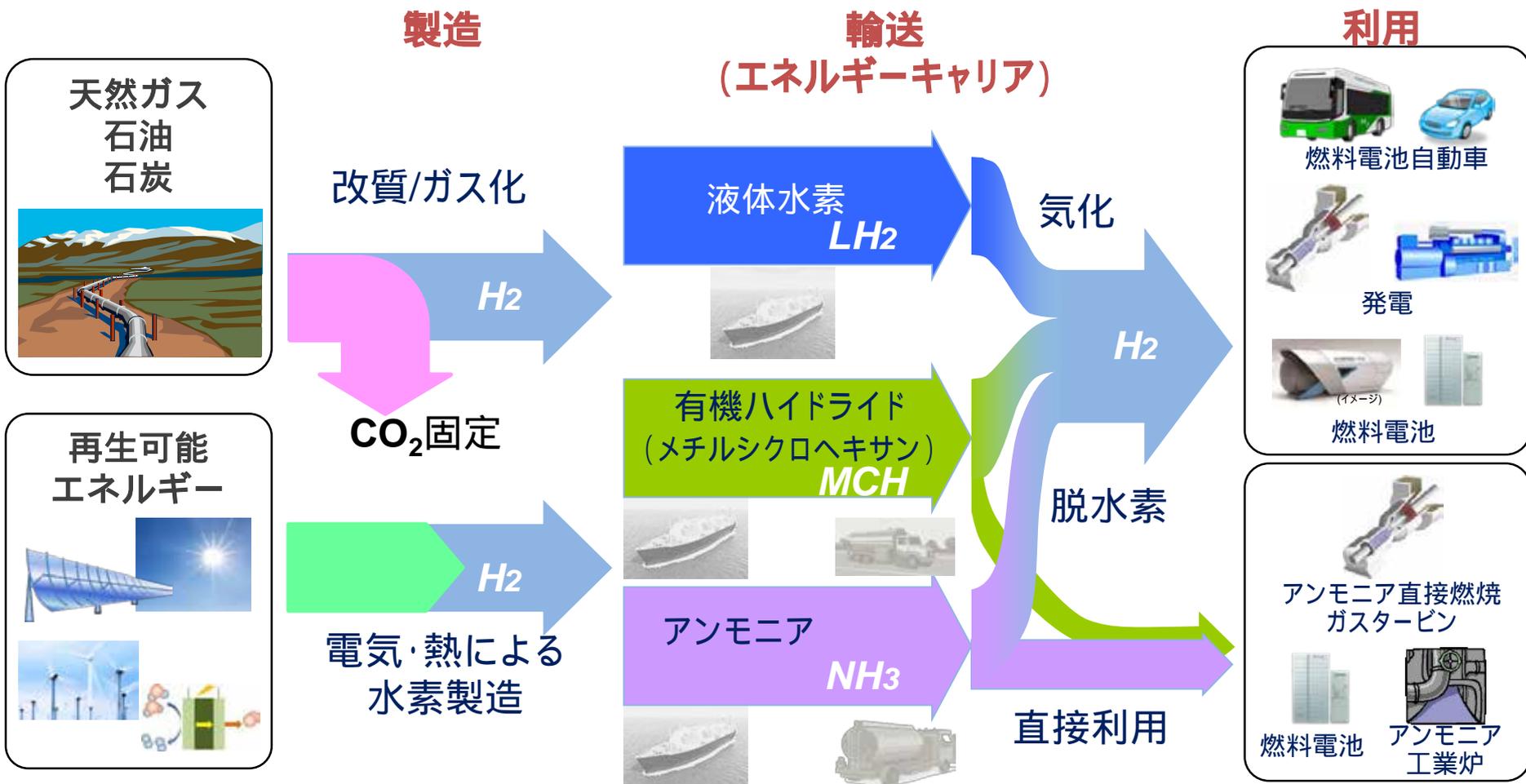




エネルギーキャリア ～新しいエネルギー社会の実現に向けて～

平成26年 12月 4日
サブプログラムディレクター
秋鹿 研一

CO₂ フリー水素バリューチェーンの構築



水素は様々なエネルギー源から製造可能で、燃料にも電気にもなる。

(大幅なCO₂排出削減が可能)

水素は低熱量の気体であり、運搬・貯蔵が困難。水素を大量輸送する技術(エネルギーキャリア)や水素をエネルギー源として利用する関連技術の開発が重要。

ビジョン

水素の「製造」、「輸送・貯蔵（キャリア）」、「利用」に関する技術開発を産官学の連携、ALL JAPANによる取り組みを強力に推進することにより、2030年までに日本が革新的な低炭素な水素エネルギー社会を実現し、水素関連産業で世界市場をリードすることを目指す。

2015-2020

- 燃料電池自動車、燃料電池コージェネの普及開始

- 安価なCO₂フリー水素の製造技術、エネルギーキャリアとその利用技術の開発

- 東京オリンピック・パラリンピックでの水素タウン実証

2020-2030

- 左記の普及拡大
- 水素発電の導入

- 水素・エネルギーキャリアによる高効率発電の実証

- より大規模な実証

2030 -

- 大規模水素発電
- CO₂フリー水素の大量導入

- 日本の水素関連産業が世界市場で活躍

2020年東京オリンピック・パラリンピックでの実証イメージ

